

## 第2章 「新入生の保護者調査」の結果

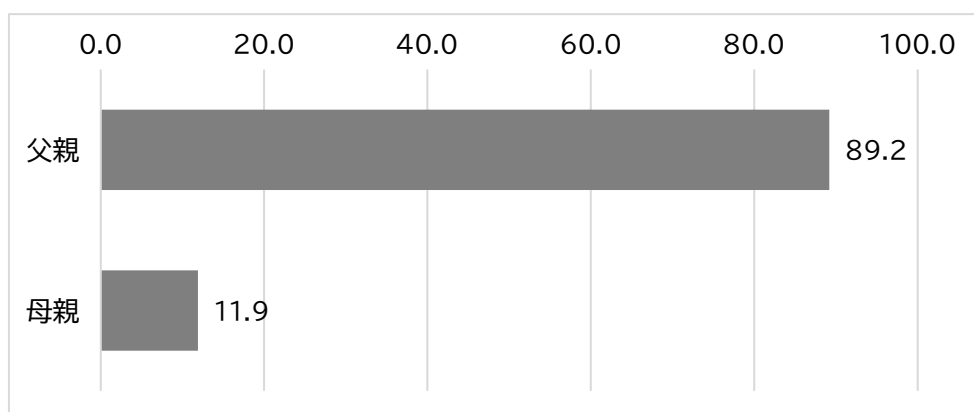
第2章では、新入生の保護者に対する調査結果について報告する。回答者は427名であり、学部別の内訳は、文教育学部191名、理学部115名、生活科学部121名である。

### (1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

#### ① 主な家計支持者

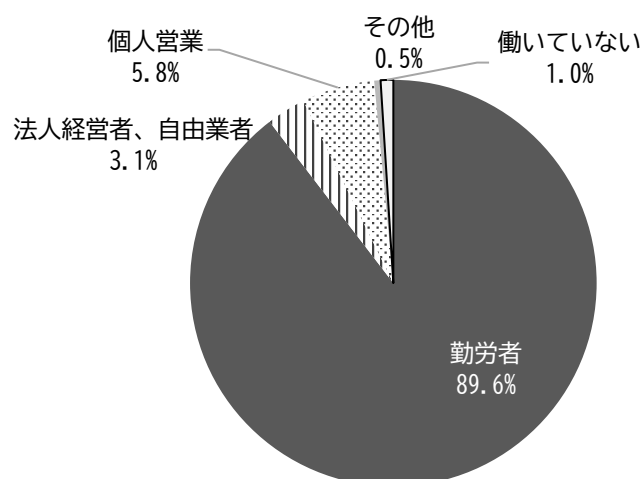
図表 1-1 に、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果を示す<sup>7</sup>。主な家計支持者は、全体の89.2%が「父親」、11.9%が「母親」である。学部による顕著な差は認められなかった。



図表 1-1 家計支持者

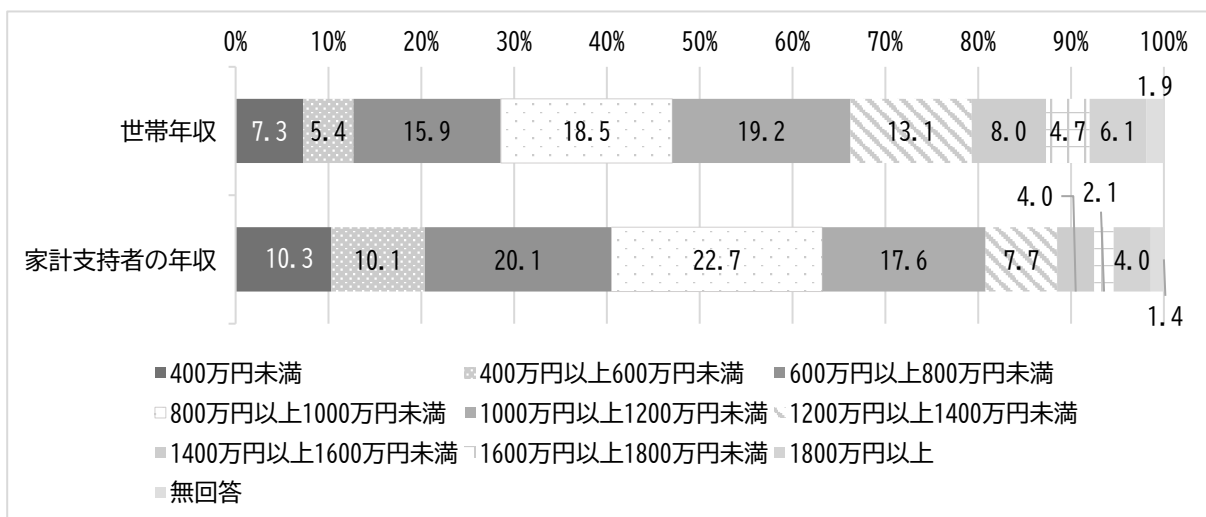
#### ② 家計支持者の職業

図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の89.6%を占め、次いで「個人営業」5.8%、「法人経営者・自由業者」3.1%である。勤労者が9割程度である傾向は例年と変わらない。



図表 1-2 家計支持者の職業

<sup>7</sup> この設問は複数選択を認めている。複数選択されているケースがあったため、父親と母親を合計すると100%を超える。



図表 1-3 家計支持者の年収

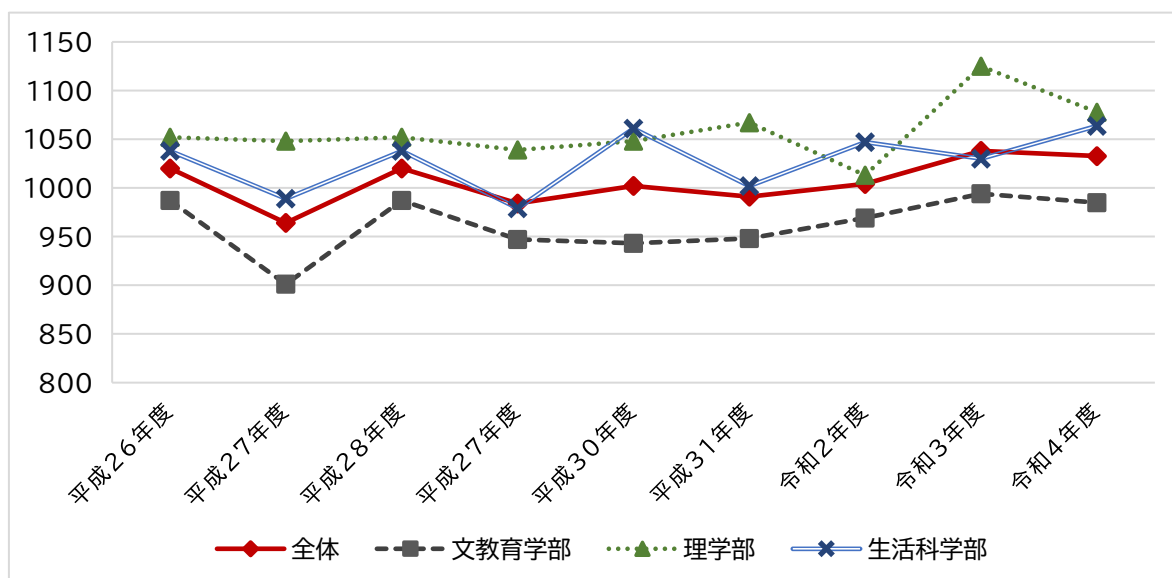
### ③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収に尋ねた結果を示す。家計支持者については、最大カテゴリーが 22.7%の「800 万円以上 1000 万円未満」、次いで 20.1%の「600 万円以上 800 万円未満」、 「1000 万円以上 1200 万円未満」が 17.6%と続く。

世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」18.5%、「1000 万円以上 1200 万円未満」19.2%が多く、合わせると 4 割程度である。家計維持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。

『令和 2 年度 学生生活調査』（日本学生支援機構 2022）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 27.9%、国立大学・女子では 31.4%である。それに対して、本学の新生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 50%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新生と同様の傾向である。

図表 1-4 に、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年（平成 27 年）度以降の新生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。国立大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 856 万円であることから（日本学生支援機構 2022）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。

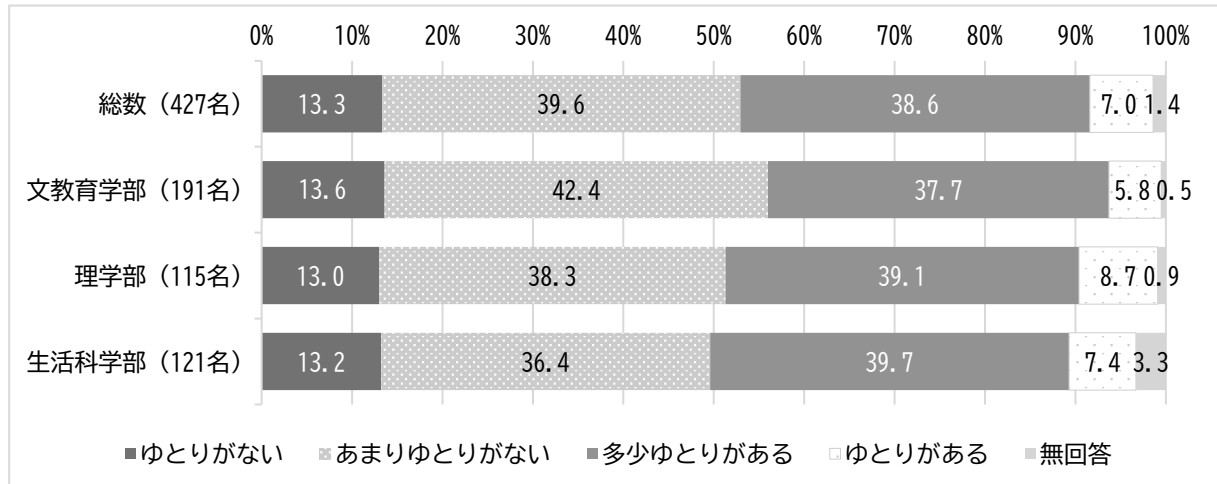


図表 1-4 世帯年収平均（推計）

#### ④ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると「あまりゆとりがない」と回答した割合が 39.6%と最も多いが「多少ゆとりがある」との回答も 38.6%とほぼ同等の割合であった。しかしながら「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」という家庭が半数程度存在している。



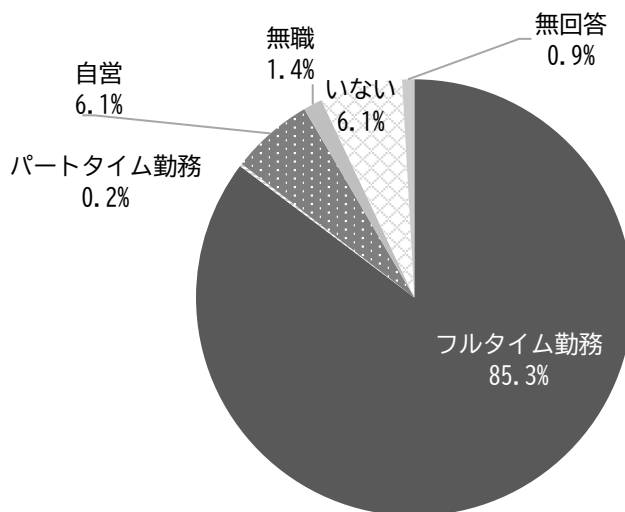
図表 1-5 入学した後の家庭の暮らし向き

## (2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

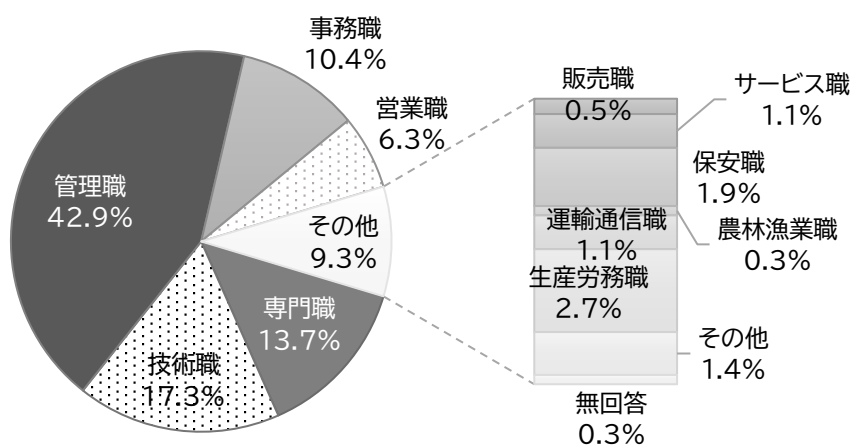
### ① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 に、新入生の父親の勤務形態（「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」）を尋ねた結果を示す。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 85.3%を占めている。、次いで「自営」が 6.1%である。



図表 2-1 父親の勤務形態

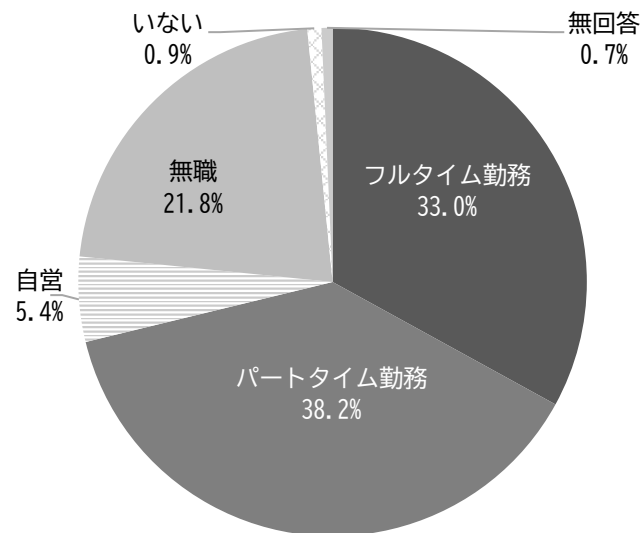
次に、図表 2-2 にフルタイムで勤務する父親に対して職種を尋ねた結果<sup>8</sup>を示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）42.9%である。次いで、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）17.3%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）13.7%、である。例年と類似する結果である。



図表 2-2 父親の職種

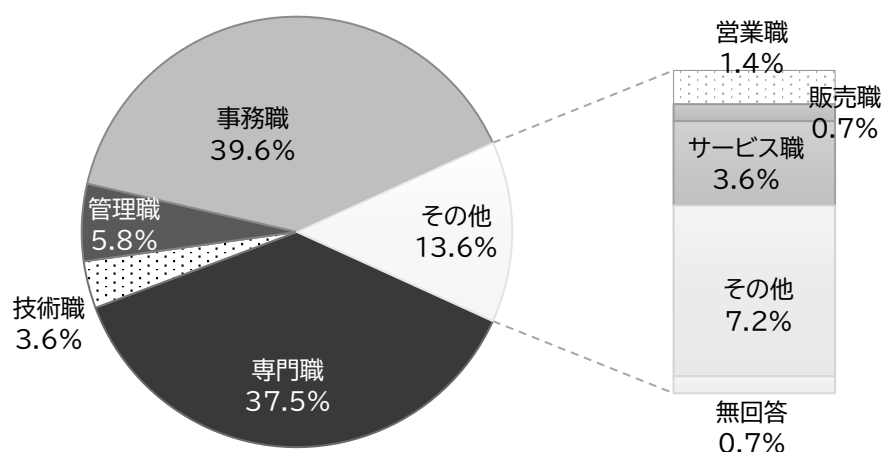
<sup>8</sup> 回答者は 364 名である。

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。例年、「パートタイム勤務」、「フルタイム勤務」、「無職」の順に回答割合が高かったものの昨年度は、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」の回答割合が同割合になった。本年度は例年と同様「パートタイム勤務」と回答した割合が 5.2 ポイントとわずかながら多かった。「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると就業者は 7 割であり、新入生の母親の 7 割が就業しており、2 割程度が「無職」であることは、この数年のトレンドである。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親に対し職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す<sup>9</sup>。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）39.6%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）37.5%が続く。この事務職と専門職の割合が同等で他に比べて多いのはこの数年同傾向である。

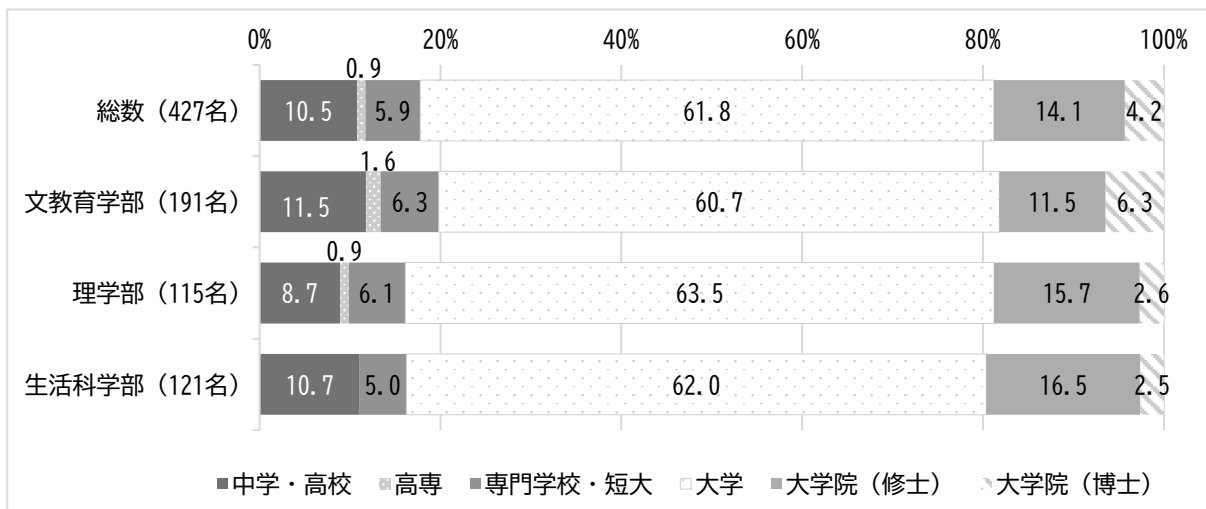


図表 2-4 母親の職種

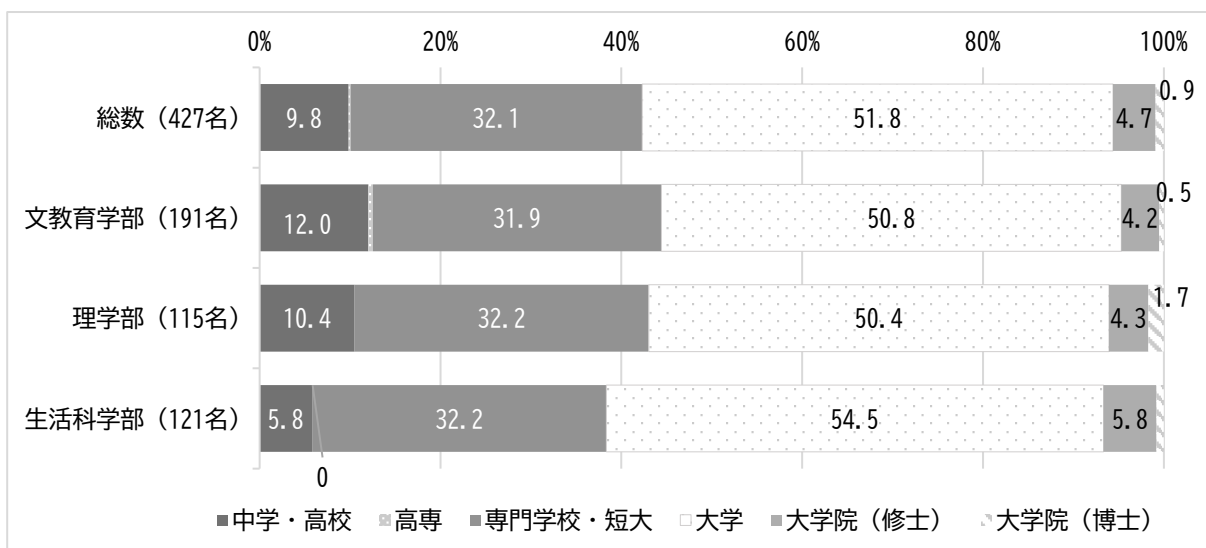
<sup>9</sup> 回答者は 141 名である。

## ② 親の学歴

図表 2-5 に、新入生の父親の最終学歴を尋ねた結果を示す。全体で見ると、「大学」が 61.8%と最も高く、続いて「大学院」14.1%、「中学・高校」10.5%である。大卒以上（大学と大学院）の学歴を持つ父親の割合が 80.1%である。令和 4 年度の新入生の父親も例年と同様に学歴が高いほうに偏っている。



図表 2-5 父親の最終学歴



図表 2-6 母親の最終学歴

図表 2-6 に新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果を示す。全体で「大学」51.8%、「専門学校・短大」32.1%、「中学・高校」が 9.8%である。「大学」が半数を超えた一方で「中学・高校」が 1 割を切った。令和 4 年度新入生の母親の学歴は、父親の学歴と同様に高いと言える。

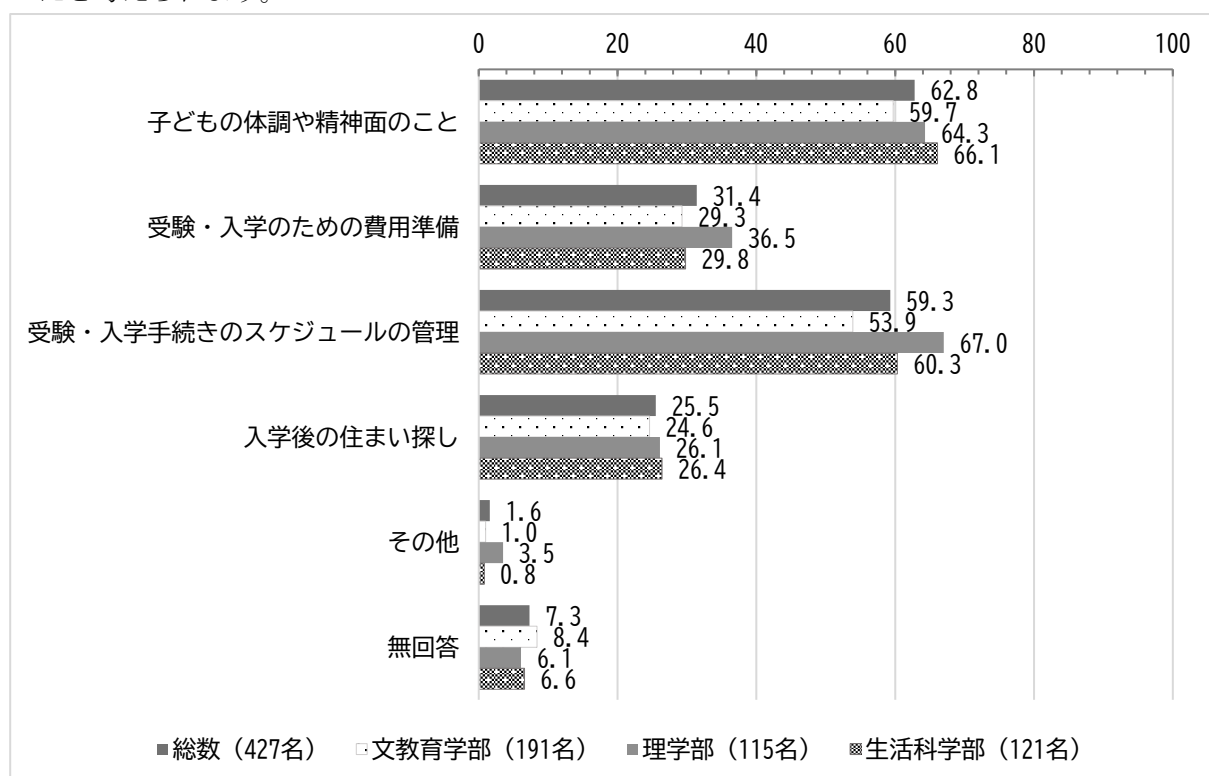
### (3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

#### ① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

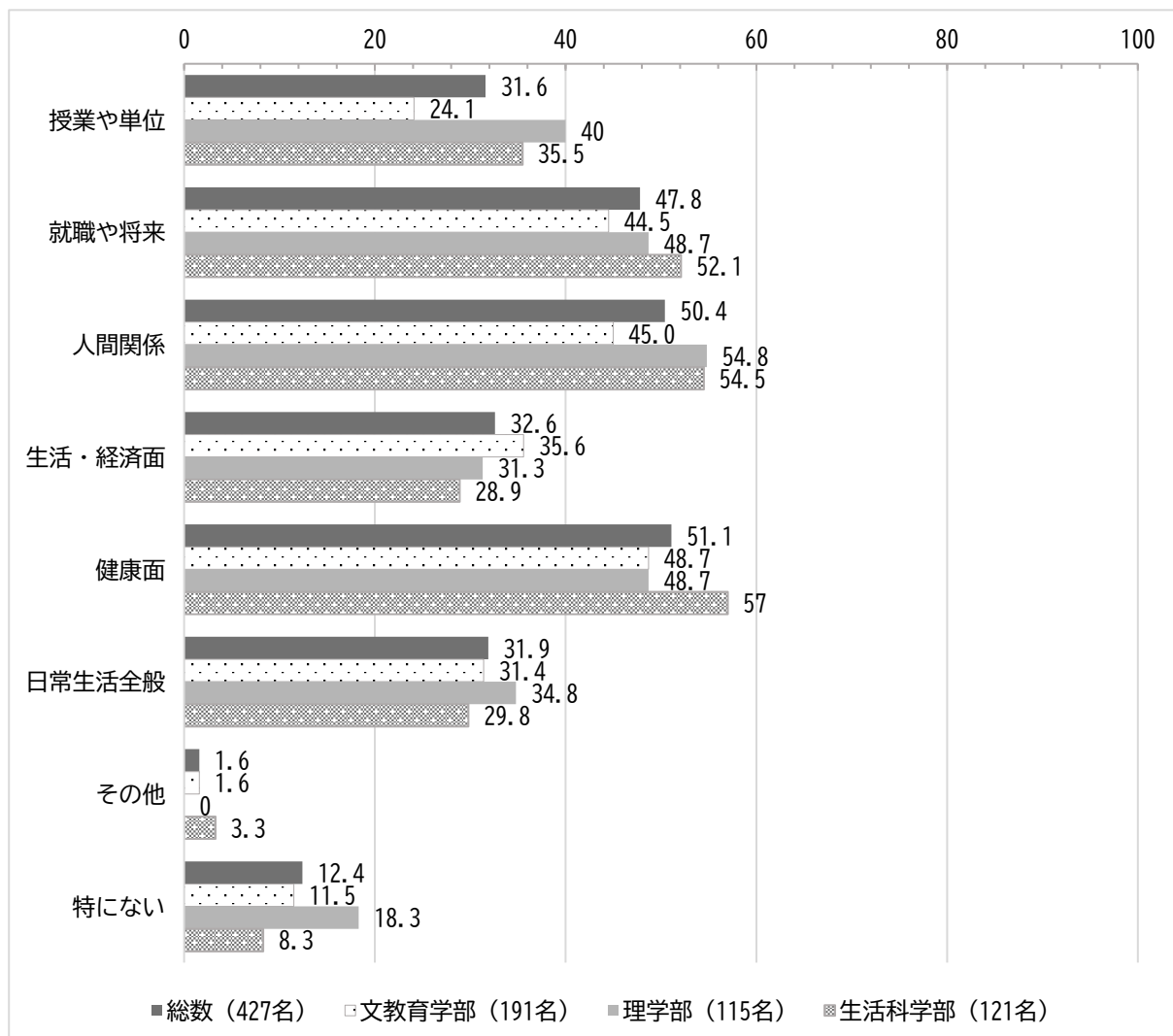
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 62.8%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 59.3%と続いており、この項目が他の項目と比べて困ったこととして回答される割合が多いのは例年と同様である。しかし、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」について令和 2 年度調査は 44.2%、令和 3 年度調査は 52.2%と増加傾向である。いわゆる「コロナ禍」における不安だけでなく、大学入試センター試験から大学入学共通テストへの変更に伴う不安もあったと考えられよう。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

## ② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。心配なこととして、全体で「人間関係」50.4%「健康面」51.1%、「就職や将来」47.8%が高かった。この3つの項目が「大学生活が始まって心配なこと」として回答される割合が高いことは、例年と同じ傾向である。



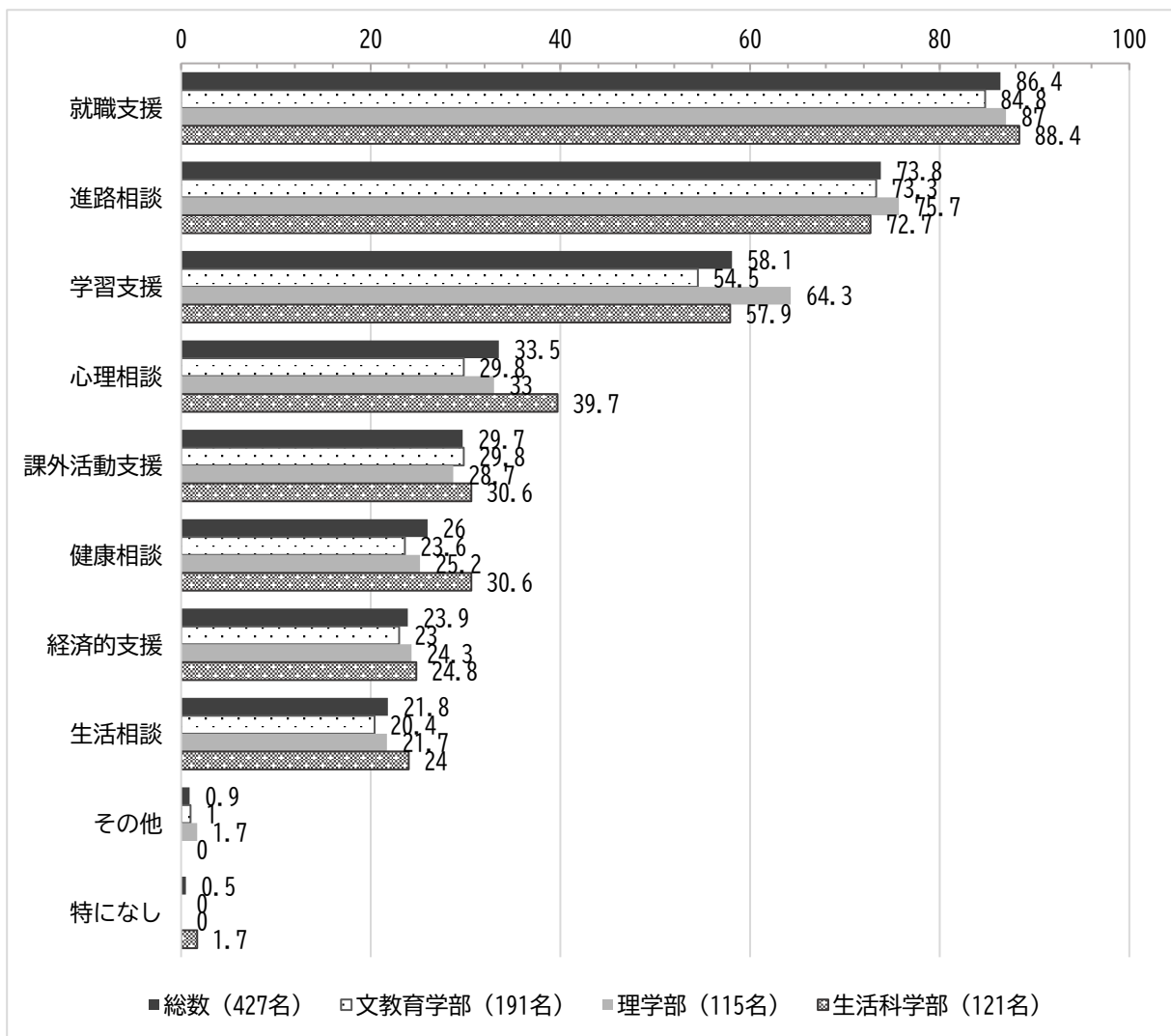
図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

## ③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 に、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体としては「就職支援」が86.4%で最も高く、「進路相談」73.8%と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。





図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの